

「縮充」のまちづくりの現在地

小さいからこそ、豊かになれるまちへ

佐用町

楽しさなくしてかわりなし
かわりなくして未来なし

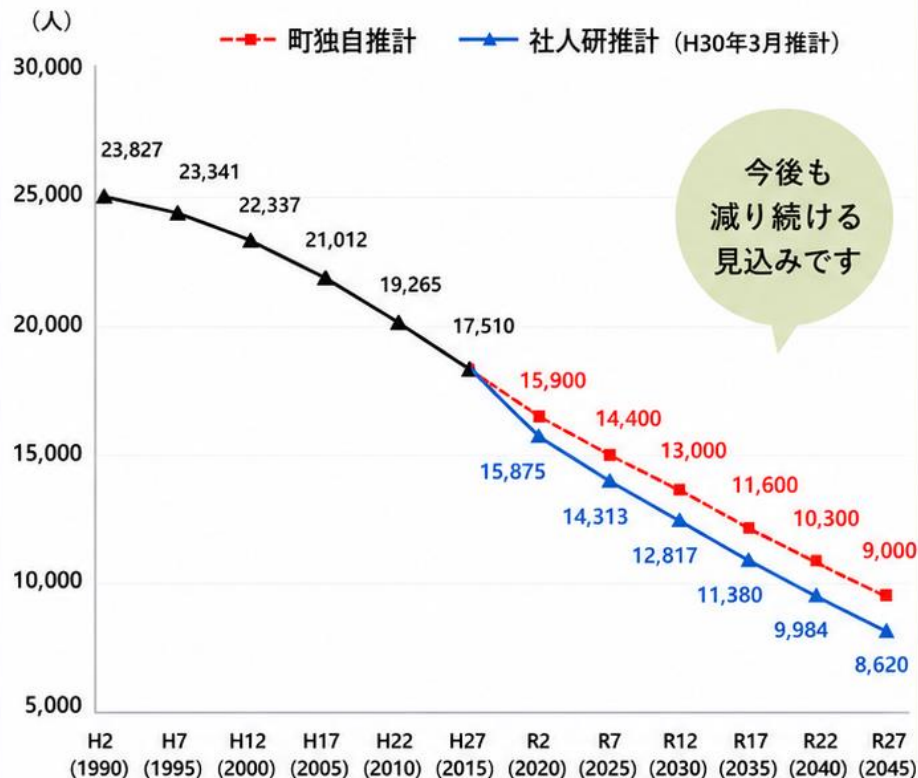


なぜ「縮充」が必要なの？

佐用町の人口も減少し、さまざまなものが縮小しています



佐用町の人口は、ずっと減り続けています



出典：町独自推計（佐用町） / 社人研推計（国立社会保障・人口問題研究所）

人口減少に伴い、地域を取り巻く環境が変化しています。



空き家

管理が行き届かない
空き家が増えています



公共交通

路線や便数が減り、
移動が不便になっています



学校

児童生徒数の減少により、
学校のあり方が
検討されています



地域団体・自治会

住民・加入者の減少により、
活動の維持が難しくなっています



医療機関・介護施設

医師・スタッフの確保が難しく、
医療・介護サービスの維持が
課題になっています



地域行事

行事の縮小や役員の負担が
増えています



農業・林業

担い手不足で、耕作放棄地や
山林の荒廃が懸念されています



公共施設

施設の老朽化や利用者の減少で
維持が難しくなっています



商店

利用者の減少、また後継者問題で
次々と閉店しています

人口減少は避けられない。だからこそ、

これからのまちづくりは、「何を増やすか」ではなく、

「どう豊かに暮らしていくか」をみんなで考えていきたい。



全国でも、まちづくりの考え方は 変わってきています

人口減少前提としたまちづくりへ。



1 地方創生2.0



人口減少を
正面から受け止める

人口減少の中でも、社会・経済が
機能する適応策を講じ、地方公共
団体間の広域連携や、官民連携を推進

2 スマートシュリンク (賢く縮む)



賢く縮みながら
豊かに暮らす

人口減少しても住民一人ひとりの
ウェルビーイング(心身の健康や幸福)を
損なわないまちを目指すもの

3 8がけ社会



人口減少時代に合わせた
社会の仕組みを考える

「高齢化がさらに進む2040年。
社会を支える働き手はますます必要になるのに、
現役世代は今の8割になる「8がけ社会」がやってくる。
今まで通りが通用しなくなる未来を
私たちはどう生きるべきなのか。」

出典：朝日新聞（令和6年～特集）

共通しているのは



人口減少を前提に、
豊かに暮らし続けるまちを目指すこと。



「言葉」は違っても、目指している方向は同じです。

.....



佐用町では、5つの思いを大切にしています。

町民の皆さんとの話し合いを重ねながら、

「縮充BOOK ～みんなで考える縮充のまちづくりSayo～」にまとめました。



\\ みんなで話し合いを重ねてきました //

1



楽しくつながる

ポジティブなつながりを
楽しむまち



2



やってみたいが叶う

チャレンジを応援できるまち



4



身の丈に あった見直し

未来を考え、出来るところ
から始める

3



みんなが主人公

一人ひとりが主役にな
れるまち



5



さようが好き

わがまちを誇りに思う

これって「縮充」!? ①

さまざまな取り組みが、まちのあちこちで始まっています。

一人ひとりが「かかわる」ことで、まちづくりが広がっています。



コミュニティスクール・縮充出前授業

佐用町ならではの学校だけではなく、
地域のかたが生徒を支えています。



- 地域のかたが授業サポートとして参加
- 学校と地域がつながり、生徒の学びや成長を支えている



女性によるおしゃべり会

女性のかたで「これからのまちとくらし」について
話し合いを始めました。



- 女性だけで「これからのまちとくらし」について話し合い
- これまで声が届きにくかった女性の意見を、まちへ届ける

05

これって「縮充」!?(2)

さまざまな取り組みが、まちのあちこちで始まっています。

一人ひとりが「かかわる」ことで、まちづくりが広がっています。



子ども食堂



- 子どもたちがご飯を食べるだけでなく、地域の人たちとつながる場として機能している
- 地域の食材や人の温かさにふれることで、子どもたちの安心や笑顔が広がっている



移動販売



- 「まちのために何かできないか」という思いを引き継ぎ始まった移動販売
- 買い物の場であると同時に、地域の見守りやつながり、交流の場として機能している

これって「縮充」！？③

さまざまな取り組みが、まちのあちこちで始まっています。

一人ひとりが「かかわる」ことで、まちづくりが広がっています。



若者グループ活動応援事業

「やりたい」という若者を、役場だけではなくみんなで応援！

環境美化活動



福祉施設へ訪問



地域でイベントを開催

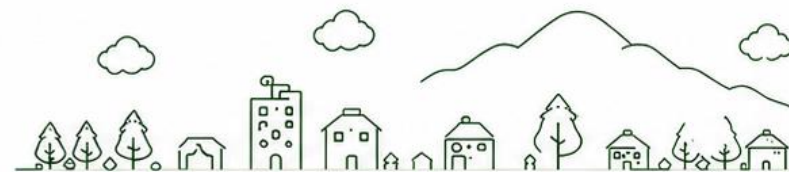


若者グループ活動応援事業では、「やってみたい」という学生や若者のチャレンジを応援しています。

環境美化活動や地域での交流やイベントなど、それぞれの「やってみたい」がまちの新しい動きにつながっています。

07 まずは「**かかわる**」ことから

一人ひとりのかかわりが、未来の佐用町をつくる力になります。



これからより大切なこと

人口が減ることより、
かかわる人が減ることの方が大きい問題

かかわる人が増えると、担い手も、アイデアも増える、
一人の負担も減る

例えば

佐用町の人口：14,000人



そのうち1%が
まちづくりにかかわると

140人



10,000人



そのうち2%が
まちづくりにかかわると

200人



楽しさなくしてかかわりなし

「かかわってみたい」と思える機が増えることで、
かかわる人も少しずつ増えていきます。



令和9年度から始まる総合計画

「**縮充**」の考えをベースに策定中



みんなで考えるワークショップ



町内での説明会・意見交換



様々な世代・立場のかたの
意見を集め、
未来の佐用町の姿と
みんなが大切にしていきたいことを
考えています。



現在、総合計画づくりでも、
地域・事業者・子ども・障がいをおもちのかたなど、
様々な立場のかたと一緒に
まちの未来を考えています。



あなたのかかわりが、未来の佐用町をつくる大切な一歩になります。



／ 縮充の考え方を広めたかた ／



次は、山崎亮さんのご講演です！



やまざき りょう

山崎 亮 さん

コミュニティデザイナー

地域の人たちが主役となるまちづくりの支援を全国で行っている。

著書「縮充する日本」は、人口が減少する中で豊かに暮らし続けるためのヒントを示してくれる一冊として、多くの方に読まれている。

／ 縮充の考え方を提唱 ／



「縮充」は造語、
「縮織（しゅくじゅう）」
が由来

ウールをアルカリ性の液体の中で揉むと毛がからまって縮み、肉厚でより暖かい生地になるように、まちもそうありたいという思いが込められている。

（著書より一部抜粋）

それでは、山崎亮さん、どうぞよろしくお願いいたします！

